

令和7年度 第2回八尾市総合計画審議会
議事録

日 時：令和8年3月27日（金）18時30分～20時20分

場 所：八尾市役所6階 大会議室

出席者：和田会長（Web参加）、和泉副会長（Web参加）、柳沢委員、吉田委員、上木委員、
木村委員、高島委員、野村委員、卯川委員、川中委員、堤委員
事務局（関係課含む）

欠席者：岡田委員、飯伏委員、江口委員、久保委員

1. 開会

事務局

ただいまより「令和7年度 第2回八尾市総合計画審議会」を開催いたします。

本日の司会を務めさせていただきます、政策企画部政策推進課長の平井です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

本日は夜間の会議にもかかわらずご参加いただき、まことにありがとうございます。

会議につきましては、対面とWebの併用で開催しております。

それでは、会議開始にあたりまして、まず資料の確認をさせていただきます。

事前に送付させていただいております資料が、

- ・次 第
- ・資 料1-1：国登録有形文化財旧木村家住宅を活用したにぎわい拠点整備事業
- ・資 料1-2：国登録有形文化財木村家住宅の整備と活用について
- ・資 料2-1：万博体験を活かした八尾のプロモーション展開事業
- ・資 料2-2：大阪・関西万博への参加・参画を踏まえたプロモーションの

基本的な考え方

- ・資 料3-1：若い世代を呼び込みまちの活気を創出する多世代交流拠点施設整備事業
- ・資 料3-2：(仮称) 八尾市立桂3館複合施設整備基本計画【概要版】
- ・資 料4-1：八尾市役所スマート行政窓口の導入
- ・資 料4-2：窓口DX SaaS概要資料

となっております。

また、本日、机上に配布させていただいております資料が、

- ・座席表

となっております。

資料はすべてお揃いでしょうか。不足している資料があれば挙手くださいますよう、お願ひいたします。

本日の会議の公開につきましては、前回同様、会議資料、会議録について公開とし、また、会議録作成事務の都合上、音声については録音させていただきたいと考えておりますので、ご了承いただきますよう、よろしくお願いいたします。

そして本日、委員 15 名のうち現時点で 10 名の委員の皆様にご出席いただいております。本審議会の開催要件である委員の過半数の出席を満たしておりますので、会議が成立していることをご報告させていただきます。

それでは、ここからは、進行を和田会長にお願いしたいと思います。

和田会長、よろしくお願いいたします。

2. 総合戦略・地方創生に係る今後の取り組み

和田会長

それでは、議事 2. 総合戦略・地方創生に係る今後の取り組みについて、議論していききたいと思います。

本日の議事の進め方について、事務局から大まかな流れなどをご説明いただければと思います。

事務局

それでは、本日の議事の進め方について、政策推進課からご説明させていただきます。

本日の議事は一点「総合戦略・地方創生に係る今後の取り組み」となっており、(1) から (4) まで、4 つの事業についてご説明をさせていただきます。

国の地方創生関係の交付金、令和 7 年度は「新しい地方経済・生活環境創生交付金」という名称でしたが、令和 8 年度からは「地域未来交付金」という名称に変更となっております。

この 4 つの事業につきましては、本市における地方創生の推進に寄与する取り組みとして、令和 8 年度に向けて地域未来交付金の採択を受けるため、国にエントリーしている事業となります。

(1) 国登録有形文化財旧木村家住宅を活用したにぎわい拠点整備事業につきましては、継続事業となります。令和 7 年度に交付金事業として採択された、令和 11 年度までの 5 年間事業の 2 年目にあたります。複数年計画の交付金事業として採択されたとしても、2 年目以降の交付金が担保されているわけではなく、毎年申請することになりますが、継続事業については、よほど大きな変更が無い限りは 2 年目以降で不採択になる可能性は低いと思われます。

(2) 万博体験を活かした八尾のプロモーション展開事業につきましても、継続事業となります。令和 7 年度に交付金事業として採択された、令和 9 年度までの 3 年間事業の 2 年目にあたります。

(3) 若い世代を呼び込みまちの活気を創出する多世代交流拠点施設整備事業につきま

しては、令和8年度からの新規事業となります。令和8年度から令和11年度までの4年間事業です。

(4) 八尾市役所スマート行政窓口の導入につきましては、地域未来交付金のうち、特にデジタル化の推進を目的とした「デジタル実装型」を活用する事業となります。デジタル実装型は単年度事業しか認められないものであり、本事業は令和8年度のみでの事業実施となります。

本日はこれら4つの事業について、各事業担当課から事業の説明、令和8年度に実施する内容をご説明させていただきます。これらの取り組みにつきましては、国の交付金が採択されるかは未定ですが、市としては令和8年度当初予算として計上しておりますので、仮に交付金が採択されなかったとしても市として実施していく事業となります。

令和8年度の主な取り組み内容や、予算については、すでに決まっている部分もごございますが、本日ご出席の皆様のご見識や、市民目線で、事業展開に係るご意見やご提案をいただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、1つ目の取り組みについてですが、この取り組みに関連しまして、前回の審議会では和泉副会長からご提案いただき、10月28日にスピンオフミーティングとして木村家住宅の見学会を実施し、和泉副会長のほか、4名の委員の方にご参加いただきました。ご参加いただいた委員の皆様、ありがとうございました。このあと、担当課からの交付金事業の説明ののち、和泉副会長がスピンオフミーティングの実施内容についてご報告していただきます。どうぞ、よろしく願いいたします。

ではまず、観光・文化財課から説明させていただきます。

(1) 国登録有形文化財旧木村家住宅を活用したにぎわい拠点整備事業 事務局

(資料1-1、資料1-2説明)

和泉副会長

この取り組みに関連し、10月28日にスピンオフミーティングとして木村家住宅の見学会を実施しましたので、その報告を委員の皆様にご報告させていただきます。

木村家住宅の見学の後に意見交換会として、木村家住宅の活用案、八尾市の観光行政について、八尾市の観光コンテンツを1つ発信するとするならば、という3つのテーマについて、参加者から多くの有用な意見を伺うことができました。

1つ目の木村家住宅の活用案については、月ごとに催し物をしてはどうか、観光拠点として使ってはどうか、河内木綿のワークショップをしてはどうか等の意見が出ました。出た意見については、何か内容を決めてしまうというのではなく、とにかく意見をどんどん出してもらうということに終始しました。

2つ目の八尾市の観光行政については、近鉄八尾駅の高架下にあった観光案内所が廃止に

なったので、その代わりを兼ねるようなものが必要と思い、木村家住宅は立地的にも良いという点でこのようなテーマを出しました。参加者の皆様から共通して得られた発言としては、自治体の観光行政は情報発信が弱いということでした。

3つ目の八尾市の観光コンテンツを1つ発信するならというテーマについては、河内音頭や枝豆、若ごぼう等たくさんの意見が出ました。木村家住宅がそれらを発信できる施設になればよいと思います。

また、私自身の主観的な意見も少し入っているのですが、木村家住宅は、中核や中心ということではなく、何かと何かをつなぐハブ的な施設にしていく方が良いのではないかという印象を持ちました。これまでは、このような施設は、文化観光や文化遺産活用の中心施設だという位置付けがなされてきたのですが、近年の傾向としては、何かをつなぐハブ的な役割を施設に与えていこうという流れもありますので、そのような点も意識する必要があると思います。また、観光行政については、やはり情報発信が重要なので、この施設を活用することで強みに転換できればよいと思いました。そして、観光施設は立地が重要なので、木村家住宅は八尾の玄関になるのだらうとも思っています。とりあえずこの施設にきてもらい、そこから八尾のまちにどんどん繰り出していくというのがよいのではないかと思います。また、八尾は「まちあるき」ではなく「まちあそび」という言葉の方がしっくりくると思っています。八尾は良い意味で、ごちゃごちゃしているので「あそぶ」というところに繋がる気がしており、木村家住宅を八尾の玄関として、人と人が繋がるハブ的な施設の位置付けになればよいのではという印象で私自身はこのスピノフミーティングを終了しました。そして、供用開始はまだ先なので、それまでの時間で施設整備と並行して、市民や地域の事業者がこの施設に何を期待しているのか意見を抽出するような機会があってもいいと思っています。私からは以上です。

和田会長

ただいま、事務局からは交付金事業の説明と、和泉副会長からはスピノフミーティングの実施報告をいただきました。大変有意義なスピノフミーティングになったと想像しております。

それでは、この取り組みについて、委員の皆様それぞれのお立場による取り組みのご提案や、各機関の連携による取り組みのご提案、より一層事業効果が高まる手法についてのご提案など、各委員より自由な発想で、ご意見をいただきたいと思います。

ご意見等あれば、挙手願います。

卯川委員

木村家住宅とは少し離れてしまうかもしれませんが、八尾市のここが一番というPRが弱いというのはもともと感じていました。私自身の話になるのですが、この前、秋田に旅行に行った際、秋田は八尾と比べると過疎が進む地域ですが、国際教養大学という偏差値も高

く、就職率もとても良い公立大学ができ、全国から学生が集まっていることを知りました。県内の就職する率は9%程で、秋田に残る人は少ないようですが、その代わり毎年新たな学生さんが来て、若い世代が常時まちにいる感じになっており、こういうのもあるのだなと思いました。

また、静岡県の沼津市は、ラブライブというアニメの聖地で沼津市のホームページにも巡って楽しむことやスタンプラリーの紹介が載っており、沼津市はラブライブのまちという認識がとても広がっているので、八尾市も何か1つ目立ったものがあればいいなと感じました。

和田会長

卯川委員のおっしゃる通り、コンテンツ等の強みのあるものを八尾市がこれからどんどんソフト面においても木村家住宅の中でコンテンツとしてぜひ発信していければいいと思います。卯川委員のご指摘は和泉副会長の報告に非常にマッチングすると思いますが、いかがでしょうか。

和泉副会長

卯川委員ありがとうございます。その通りで、たくさんあるコンテンツが共有されていないという点が問題かと思います。まずは地域の魅力をできるだけ多くの地域の方々に共有し、そこから様々な展開を考えていくことが順番としては重要だと思いました。

和田会長

供用開始は令和12年と約4年後なので卯川委員のご指摘が供用開始される前にきっちり準備されるということが大事だと思います。

また、自治体というのは、八尾市に限らずPRが苦手だと思います。もともと企業のようにPRするというのは常にしてこなかったと思いますが、今やもう自治体株式会社と言われるくらいでアピールする時代なので、そのあたりを八尾市がこの4年間でいかに市民の方のご意見を入れながら準備するかということになるかだと思います。

他いかがでしょうか。

野村委員

八尾ではファクトリズムというオープンファクトリーの取り組みがあり、八尾市全体で盛り上げてやっていこうというプロジェクトをされていますが、そこでもやはり情報発信するタイミングがかなり遅く、何かこれをしようというタイミングも遅いと感じます。

弊社ではコンペイトウの手づくり体験をしており、それに加えて、ファクトリズムで別のプログラムを作っておりますが、通常の体験の方はすぐに予約が埋まる一方、ファクトリズム用の時間枠がなかなか埋まらないということがありました。告知するタイミングをもう

少し早くしていただきたいのと、何をしているのか、何のためにするのか、どういう風に八尾に来てもらって、どういう風を楽しんでもらって、どういう風にお客様に発信してもらいたいのか、その先まできちんと考えて発信してもらえると有難いです。今回の木村家住宅もよいかと思います。古民家を再利用してランチができるような素敵な場所をつくることや、古民家バーベキュー等もできると思います。

まず八尾市の読み方すら知らない方もいると思うので、八尾市の素晴らしいところについて発信をして、またそのタイミングを逃さないことが大切かと思っています。

和田会長

ありがとうございます。魅力あるものを逃すのは本当にもったいないと思いますので、情報発信を素早くするのが重要だと思います。先ほど和泉副会長がおっしゃったように、木村家住宅は立地も良く、何かと何かをつなぐ場所になればという話もありましたので、木村家住宅に行けば何か情報を得られたり、何かと連携できる等を準備段階からぜひしていただけたらと思います。事務局から今の段階で何かご返答いただけることはありますか。

事務局

先ほどから和泉副会長をはじめハブ機能というキーワードをいただいているところですが、木村家住宅をしっかりと活用しながら観光案内の情報発信機能を兼ね備えた建物を建築したいと考えております。

また、委員の皆様からいただいている情報発信の大切さというのは私どもも重々感じているところです。今までは、ホームページや紙媒体の広告物が多かったですが、最近は、SNSの活用や、若者がインフルエンサーに影響を受けるということもありますので、そういったところもしっかり活用しながら、木村家住宅だけでなく、八尾市の魅力を発信していきたいと考えています。

木村委員

木村家住宅は元々河内木綿の商家ということですが、以前勤めて山形県の鶴岡市の事例を紹介させていただければと思います。そこでは、サムライゆかりのシルクということで絹を日本遺産に登録しており、開墾した後の工場等が残っており、ストーリー仕立てにして観光資源にしているという例です。地元の絹製品を作っている会社も関わっており、絹で作った小物をそこで売る取り組みもしているようです。

河内木綿を復活させようという動きがあるというのは新聞で見たことはあるのですが、まだそこまではいってないと認識していますので、なかなか活用は難しいのかもしれませんが、観光資源としての1つの捉え方として参考になればということで紹介させていただきました。

和田会長

ありがとうございます。他県の事例も具体的で参考になるかと思います。他いかがでしょうか。

堤委員

質問なのですが、天童よしみさん等の八尾の魅力大使の方々は、何か取り組みに関与してくださることはあるのでしょうか。

事務局

観光・文化財課では、八尾市出身の GENERATIONS の片寄涼太さんにお観光創造アンバサダーになっていただいております。今年3月11日に八尾市に来ていただき、木村家住宅ではないですが、八尾空港周辺や恩智、高安山ケーブル等を実際にまち歩きしていただき、今後、ご自身の Youtube チャンネルで投稿いただく予定です。特に、若者の方に影響力のある方ですので、八尾の魅力発信を実際に行っていただいているところです。

事務局

魅力大使につきましては、天童よしみさんをはじめ4名いらっしゃいますが、八尾市の名所や名産をあしらった魅力大使の名刺を作らせていただいているので、様々な場面で八尾市の名前をPRしていただいているところです。

堤委員

新しく創造する面でいうと発信力の強い方に関与してもらうのが一番いいと思ったので質問しました。実際に見学して木村家住宅のポテンシャルは高かったので、爆発的に何かできるのは芸能人の方が一番強いと思いました。特に、片寄さんは若い世代に人気なので、どうにかして関わってもらえればと個人的には思います。

和田会長

貴重なご質問とご意見だったと思います。例えば供用開始のオープニングセレモニーの時に来ていただく等で、活かしていくのも良いと思います。他いかがでしょうか。

野村委員

実際に、片寄さんにコンペイトウミュージアムに来て体験して発信してもらいましたが、その後、やはり若い女の子がたくさんいらっしゃいました。ただ、それがずっと続くかというところではありません。また、芸能人やインフルエンサー等に有償で投稿してもらったり、無償で体験していただいた動画の投稿であると、「PR」とつけないといけないですが、そうすると、PRなら行くのやめようという流れになってしまう時があります。もし、そのコ

コンテンツが他にない、すごく良いものであれば、有償であっても来てくださいます。

例えば、ドズル社のおらふくんに堺ミュージアムに来てもらった際、有料の体験をして動画投稿して下さったのですが、そのあともたくさんのお客様がいらっしゃっています。

他にないコンテンツであれば、国内外からたくさんの方にお越しいただけると思うので、ユニークでオリジナルな何かをつくるのが一番八尾にとって強みになると思います。他の地域に負けない、オンリーワンのものをつくり上げることが必要だと思います。

和田会長

ありがとうございます。唯一無二のものを八尾市にということで、事務局の方いかがでしょうか。

事務局

貴重なご意見ありがとうございます。木村家住宅は、近鉄八尾駅の近くなので立地を活かして多くの方に訪れていただけるような施設、運営の内容にしていきたいと考えております。いただいたご意見を参考にさせていただき、今後、整備や運営事業者との協議に臨みたいと思います。

和田会長

ありがとうございます。それでは、お時間もありますので、次の取り組みに進みたいと思いますが、和泉副会長はスピノフミーティング等の関係でかなり関わっておられますので、出た意見についてまとめられることがあればお願いします。

和泉副会長

皆様から大変貴重な意見がたくさん出たと思います。先ほども少し触れましたが、供用開始まで時間がありますので、その間にもっと多くの方々に色々な意見をもらい、他地域の事例も分析、調査しながら八尾にしかないような施設をつくり上げるというところに繋げていただければいいと思いました。

和田会長

ありがとうございます。それでは、お時間もありますので、次の取り組みに進みたいと思います。

それでは、(2)の取り組みについて、事務局よりご説明をお願いします。

(2) 万博体験を活かした八尾のプロモーション展開事業

事務局

(資料2-1、資料2-2説明)

和田会長

ただいま、事務局から説明がありました。万博は随分前のことのように思いますが、八尾市はかなり力を入れておられましたので、万博への参画を踏まえて、強み弱みを分析され、次の段階も見据えているということでした。

それでは、この取り組みについて、ご意見等あれば、挙手願います。

野村委員

資料2-2の「八尾愛が強い」というワードが少し気になりました。「愛が強い」が「愛が重過ぎる」になると、少し違う意味になってきて、一方的になってはいけなくて、距離感は大事にしないといけないと思います。「愛が重過ぎる」になると、嫌悪感を抱いてしまうので、そうならないように模索しながら、他府県や海外の方でも1歩踏み出しやすい距離感がつくれたらいいのではと思います。

和田会長

鋭いご指摘だと思います。表現について、事務局もやむを得なかった部分があるかと思いますが、言葉は色々な解釈があるので難しいと思います。事務局、今のご意見いかがでしょうか。

事務局

別の表現があるのではと言われると全くもってその通りかと思うところですが、我々としては、万博に出展された皆様や八尾で活動をされている皆様が、八尾への愛を持って活動していただいているということで、感謝の意味を込めて、そのように表現させていただいているところです。

卯川委員

私は、関東出身で八尾に住んで16年なので、八尾市が住みよいまちになればいいなという気持ちがありますが、押しの強さが大阪っぽいなと思っています。

私自身、万博は何回も行きましたが、資料にある八尾の出展内容の全部を知っているわけではなく、八尾なら目に入るはずなのに、資料を見て知りました。また、八尾が米粉の聖地というのも知らなかったです。それなら、米粉を使ったパンやスイーツの普及や、八尾若ごぼうのように米粉パンを給食で使ったりするのもいいと思いました。

柳沢委員

この事業は、何か物をつくること等もできるのでしょうか。

事務局

今回の国費事業の中では、物をつくるというよりは、八尾市外のとんしばやインテックス大阪、グランフロント、京都等の場で、米粉の聖地というのもあまり認知されていないとのことでしたが、今回の万博出展を契機としたPRをしていく取り組みのための経費と考えております。

柳沢委員

万博のミャクミャクがとても人気なので、太陽の塔のようにミャクミャク像を八尾空港に建てる等すれば、それだけで継続的な誘客につながるのではないかと思いました。

あと、資料2-1の女の人たちはどのような方なのでしょうか。

事務局

八尾をPRしていただいている地下アイドルです。この方々に八尾のイベントに来ていただき、このアイドルを推しているファンで八尾を知らない方々にも、アイドルの推し活を通じて八尾市のことを知ってもらう等の取り組みをしています。

柳沢委員

この方々は何人おられるのですか。

事務局

人数は、アイドルグループですので出入りがあり、最新は把握しておりませんが、6人程度かと存じます。

柳沢委員

八尾なのでダジャレで80人にして、全国行脚してもらうというのも面白いのではないかと思います。

高島委員

八尾の魅力の1つに、ものづくりのまち八尾があり、それに関連して、みせるばやおの取り組みやファクトリズムという大きなイベントをやっていると思います。例えばファクトリズムは4日間で約2万人~3万人来るようなイベントであり、また、万博では、私どもは、いのちの遊び場クラゲ館にてワークショップをしていました。計73回で3万人ほどのお客様にご参加いただき、1回2時間半のワークショップなのですが、そこに500の方が一度に押し寄せていただきました。また、明日もアフター万博の関係でファクトリズムのイベントをさせていただきます。

それほど広報もしていないのに、うちのような小さな会社でもそれほどの方が来てくだ

さるということを見ると、今あるその魅力的なコンテンツをもっと広めたらよいと思います。

今回の万博では、全国のワークショップをされている団体や自治体とも一緒にさせてもらっていましたが、八尾は別格だと言われるくらいコンテンツをたくさん持っていると思うので、ぜひものづくりの八尾をうまく活かした集客できるコンテンツの 1 つとして使っていただけたらと思います。

和田会長

現場の視点で万博での遺産をより活用できる事例をご報告いただいたと思いますが、事務局いかがでしょうか。

事務局

我々も、八尾市には強力なコンテンツがあると思っています。今回、プロモーションの基本的な考え方を作成するにあたり、市民の方々や学識の先生にお話をお伺いしたところですが、皆様が口を揃えておっしゃるのが、新たな何かというのも良いが、八尾市にもともとある地域資源やコンテンツをどんどん推していけばどうかという意見をいただいていますので、その方向で、皆様の活動を前面に押し出しながら、八尾市の魅力が増えていくような取り組みを続けていきたいと考えております。

上木委員

先ほどミヤクミヤク像の話がありましたので、今日の日経新聞の地域経済欄に、万博に置いてあったミヤクミヤク像が 6 月に泉南市に移動するという記事が載っていたのを思い出しました。八尾市も公募されているのかと思いますが、こういったことができれば、事業と組み合わせると盛り上がると思いますが、なかなか難しいのでしょうか。

事務局

ミヤクミヤク像につきましては、八尾市も応募しましたが落選となりました。ただ、先ほどの話にありました、クラゲ館の記載台や co-クラゲの短冊をいただいているので、市民の方々に見てもらえるように、市役所の 1 階や市内の各所に置くことで、万博のレガシーを見てください、集客に繋がりたいと考えております。

和田会長

ミヤクミヤクに限らず、八尾市は何でも応募されますので、ぜひコラボできるものはチャレンジングにいただければと思います。他いかがでしょうか。

川中委員

八尾市は万博で色々なイベントをされたと思いますが、八尾市に興味を持った方に、次は八尾市で体験型のイベントをしてはどうかと思います。例えば、ポケモン GO などの位置情報を活用したアプリ（ゲーム）は近年流行っており、大学生や高校生もしている人が多いと思います。そういったことと関連付けて、体験型のイベントなどを実施し枝豆のキャラクターをゲットして八尾市と言えば枝豆という印象を持ってもらえると色々なところに広まっていくのではと思いました。

事務局

八尾市に来られた方に八尾市がどんなまちかを認識してもらえるような取り組みのご提案と認識しております。ご指摘いただいた、ポケモン GO とのコラボは現時点ではないのですが、ガチャガチャを活用して八尾市の地域資源を知ってもらう体験は考えております。また、昨年には、万博で古代衣装を着る体験イベントを行ったところ、試着した方の写真を撮る海外の人が居られたので、地域資源を体験していただくことや、先ほど川中委員にご提案いただきましたようにデジタルを活用する等も視野に入れながら取り組みたいと考えております。

事務局

体験というところでご提案いただきましたので、観光・文化財課の方からも発言させていただきます。多くの方に八尾を訪れてもらうために体験型コンテンツがあった方がよいという点で、ものづくり体験や、枝豆の収穫体験、いちご狩り等、今ある地域資源で体験型コンテンツを色々造成しました。

また、今回、「八尾じゃらん」を作成し、大阪市内を中心に宿泊施設、ホテルなど 67 施設に配架し、集客の取り組みを進めているところです。

堤委員

先日、大仙公園に家族で行った際、ミャクミャクと写真撮影ができるということで、人が集まっていたので、久宝寺緑地に呼ぶのはどうかと思いました。

また、八尾愛という点では、住みやすいまちランキングのように何か客観的にわかりやすい表現で、数値化できるようなものになれば、関心が深まると思いました。

T.M.Revolution さんのように強い地元愛を持ってらっしゃる方にフェスや音楽イベントのようなものをやってもらえたら発信力が強くなるのではないのでしょうか。

また資料に記載の、やおプロモーション推進アドバイザーとはどなたでしょうか。

事務局

ミャクミャクの活用につきまして、昨年 11 月にアリオ八尾で、万博に出展された店舗や河南町や松原市などの近隣自治体とも広域連携しつつアフター万博のイベントを開催し、

そこにミyakミyakに来ていただいたのですが、前日の夜から並ぶ方々がいるほどの人気で、ミyakミyakの効果は肌で感じておりますので、次年度におきましても積極的に活用したいと考えております。

また、やおプロモーション推進アドバイザーは2名おり、1名は吉本興業所属で大阪府住みます芸人である span!水本さんで、万博で出展したお店をめぐり X で発信していただく取り組みをしています。もう1名の方は、学識の方で、今回、このプロモーションの基本的な考え方の策定にも携わっていただいております。

八尾愛の測り方については、資料2-1の主なKPI欄の3番目に記載の「八尾の魅力を友人や知り合いに推奨する気持ち強い市民の割合」を設定しており、こちらは市民意識調査で測っていますので、その増加を目指していければと考えております。

また、T.M.Revolutionさんは、滋賀県で様々な活動をされていると認識しておりますが、八尾市においては、先日、八尾出身のバンドマンの方から魅力大使になりたいとお話をいただきました。魅力大使ではないですが、八尾市のプロモーションや八尾愛に強い人々に発信してもらう活動をしているとお伝えしたところ、ぜひ自分のネットワークを活かして恩返ししたいと言っていただきました。このように、八尾愛を持っていただいている方に積極的にご協力いただきながら地道にPRできればと考えております。

和田会長

ありがとうございます。それでは、次の取り組みに進みたいと思います。

(3)の取り組みについて、事務局よりご説明をお願いします。

(3) 若い世代を呼び込みまちの活気を創出する多世代交流拠点施設整備事業

事務局

(資料3-1、資料3-2説明)

和田会長

ただいま、事務局から説明がありました。

それでは、この取り組みについて、ご意見等あれば、挙手願います。

卯川委員

若い世代を呼び込むというのは、八尾市外からの転入も期待しているのでしょうか。市外からも呼び込むということであれば、少し難しいのではないかという印象があります。

また、若い世代というと子育て世代にも優しいまちづくりということになると思いますが、最近、テレビで住みやすいまちランキングを見た際、立地は良いがこれまであまりイメージのよくなかったまちが、駅前の芝生を広くしたり、道路を広くリニューアルしたことで、とても明るいイメージになり関西圏で2位になったというのを見ました。八尾市も久宝寺

駅だと快速で天王寺まで 1 駅なので、そういった点をアピールするのも効果的だと思います。

事務局

若い世代の方を呼び込むというのは、八尾市内での転居だけでなく、市外からの転入もできれば進めていきたいと考えています。

この地域では、人口減少や少子高齢化が進んでいるため活気をつけていくことを目的にまちづくりを進めています。まちづくりについては、本日ご説明した施設整備の他にも、若い方々が移り住みやすい居住促進の取り組み等もありますので、様々な取り組みを各部局が連携して行うことで、若い方々に来て、住んで、交流してもらい、関係人口を増やす取り組みを長い視点で進めていく予定としております。

事務局

本日の資料ではお示しできていないのですが、この地域は、これから大きくまちづくりの再生をしていこうと計画しております。

一例で言いますと、この地域にたくさんある小規模な公園を 1 ヶ所に集めて 4 万平米程の大きな公園をつくろうと考えています。そこには公園の機能だけでなく、防災の機能、スポーツの機能を盛り込み、市内外から遊びに来てもらえるよう、集客の核の 1 つにしたいと考えております。

また、この地域では、日常の買い物も少し不便なので、民間商業施設を誘致したり、若い世代が住みたいと思ってもらえるよう、教育面や通院面等も考え、25 年程の長い期間でまちづくりを進めていきたいと考えています。

交通の便については、八尾の一番北端になるので残念ながら鉄道の駅からはかなり離れてしまっておりますが、近鉄バスに乗れば 12、13 分で近鉄八尾駅に着きます。また、八尾市の乗合タクシーもあり、交通不便地をなくしていこうと、この地域では実証実験も始まっておりますので、今後、公共交通の機能を検討し、改善を図っていこうと考えております。

和田会長

ありがとうございます。今後、公共施設の建て替えがたくさんあるかと思えます。その先鞭になる施設ということで、先ほどの木村家住宅の事業と同様に、供用開始まで時間がありますので、改めて議論することになるかと思えます。

それでは、次の取り組みに進みたいと思えます。(4)の取り組みについて、事務局よりご説明をお願いします。

(4) 八尾市役所スマート行政窓口の導入

事務局

(資料4-1、資料4-2説明)

和田会長

ただいま、事務局から説明がありました。

それでは、この取り組みについて、ご意見等あれば、挙手願います。

卯川委員

この前、コンビニで戸籍謄本を取ろうと思ったら日曜日はボタンが押せなくなっており、発行できなかったのですが、日曜日は発行できないのでしょうか。

また、スマート行政窓口が導入されると、予約のある列と予約のない列に分かれるようになるのでしょうか。不公平感のないように配慮は必要かと思いました。

事務局

本日担当課が不在ですので把握しきれておりませんが、基本的に日曜日でも発行できるはずですが、定期的なメンテナンスが入るタイミングがあるので、もしかするとそのタイミングで使えなかったのかもしれないです。また、対応している市町村としていない市町村がありますので、その関係もあるかと思えます。

予約のあるなしの対応については、現在、検討中であり、他市では、予約された方と予約されない方で列を分けた場合にクレームがあったという事例も聞いておりますので、単純に分ければよいというものではないとも考えております。例えば、某ファストフード店のようモバイルオーダーと通常の番号を変える等の対応方法も考えながら来庁者の手続き時間の短縮に繋がるよう、引き続き検討を進めていきたいと考えています。

和田会長

吉田委員、大阪府全体でスマート窓口行政がどの程度進んでいる等、何かコメントはございますでしょうか。

吉田委員

住民向けの窓口業務のデジタル化はとても重要だと思います。同様に、事業者向けのデジタル化についても、八尾市でどの程度進んでいるのか教えていただければと思います。

事務局

本日担当課が不在ですので具体的に何件というのは把握しきれておりませんが、これまでの取り組みとして、新型コロナウイルス感染症が拡大した際に、感染症対策の事業者支援金の国費を活用した事業があるのですが、その際には、サイボウズ株式会社の kintone というシステムを使い、事業者からの申請、支援金の支払いの一連の流れをオンラインで行ったことがあ

ります。

事業者も八尾市の条例の中では市民という位置付けですので、今後も、利便性向上に向けて、積極的に取り組みたいと考えております。

川中委員

資料4-2に「経験の浅い職員も窓口対応可能」と書いてあり、窓口対応の面で専門のAI等を導入されるのかと理解したのですが、その認識でしょうか。

事務局

資料4-2で示している該当の部分につきましては、窓口DX SaaSの仕様に含まれる1つの機能であり、例えば、市民が来られた時に、年齢構成や目的を聞きながら順番に選択していくことで、職員の経験が少なくても誰がやっても同じような手続きの案内ができるという仕組みを指すものとなっております。

一方、AIの活用という点につきましては、現状、実証実験中ですが、健康保険課の電話対応について、AIを活用した自動応答の仕組みを一部導入しております。電話でのお問い合わせのうちホームページ等でわかる内容については自動応答で完結し、職員による直接の対応を減らすことで、より濃い内容の相談に集中できるという方向で検討を進めているところです。

和田会長

活発な意見交換をありがとうございました。事務局におかれましては、今後の地方創生関係の交付金事業の実施に際し、本日、委員の方々から頂いた意見を参考にさせていただけたらと思います。

それでは、次の議事に進みたいと思います。

3. その他

和田会長

「3. その他」ということですが、事務局から何かございますでしょうか。

事務局

それでは、委員の皆様には次年度の審議会についてご説明させていただきます。次年度につきましても、今年度と同様、2回の審議会を予定しております。

来年度の審議会では、昨年7月開催の第1回審議会での市長からの諮問である「八尾市総合戦略の効果検証に関する事項」に対して、議論を踏まえて審議会としての答申をまとめていただくこととなります。

令和6年度の取り組みについては昨年7月に効果検証していただきました。令和7年度

の取り組みにつきましては、次年度に効果検証していただく予定であり、これらの効果検証の内容をまとめて答申を行うこととなります。今年の6月か7月頃の開催を想定しております次年度の1回目の審議会において答申(案)をお示しさせていただき、年内開催を想定しております2回目の審議会において答申内容をご決定いただく流れを予定しております。

なお、令和8年度末には、次期総合計画の策定に向けた議論もスタートしていく予定ということもあり、総合戦略に関する現在の形での審議会については、今年度より少し早い時期での開催を予定しておりますが、次年度におきましても、引き続きよろしくお願いたします。

和田会長

ありがとうございます。次年度の審議会について、事務局よりご説明いただきました。委員委嘱期間は令和7年度と8年度の2か年度ですので、人事異動等でお代わりになられる方がおられるかも知れませんが、概ね同じ顔触れで、次年度についても総合戦略に係る議論をしていければと思いますので、引き続き、よろしくお願いたします。

和田会長

では、以上をもちまして、議事はすべて終了いたしましたので、事務局に議事進行をお返します。

4. 閉会

事務局

皆様ありがとうございました。

活発にご意見交換いただき、感謝申し上げます。

それでは、閉会にあたりまして、政策企画部長 山原よりご挨拶申し上げます。

山原政策企画部長

閉会にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

委員の皆様におかれましては大変お忙しい中、長時間のご議論をいただき、誠にありがとうございます。本日は2回目の会議であり総合戦略・地方創生に係る今後の方向性について様々なご意見をいただいたところです。

次回は、来年度の6月か7月頃を予定させていただいておりますので、それに向けて事務局においてこれまでの審議を踏まえ、答申案の策定に取り組んでいきたいと考えています。

また、現在、国会審議において11年ぶりに暫定予算が閣議決定となり、本市の財政におきましても大きく影響がございます。小学校給食無償化の費用につきましては、国の暫定予算に含まれたということで少し安心しているところでございますが、引き続き、物価高騰や

国際情勢については懸念がございますので、市民生活に一番近い基礎自治体といたしまして、様々対応を行っていきたいと考えております。

また、大阪・関西万博も盛況のうちに幕を閉じ、この4月で開幕から1年が経つこととなりますが、本市におきましても、万博で培った経験や成果、また、出展いただいたものづくりや伝統文化をはじめとした八尾市の地域資源を多くの市民や市外の方々に、どういう形でプロモートしていくかがアフター万博として非常に大事だと考えております。住んでみたい、住み続けたいと思っていただける人を増やしていきたいと考えておりますので、本日のご意見も踏まえ、取り組んでいきたいと思っております。

今回ご説明させていただきました各種の事業につきましても、そのような考え方、視点も踏まえまして、地方創生の推進に寄与する形で進めていきたいと考えておりますので、重ねて、引き続いてのご支援やご協力をお願い申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

事務局

それでは、以上をもちまして、令和7年度第2回八尾市総合計画審議会を閉会いたします。本日はありがとうございました。